

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・順列、組合せ、集合、ベン図、条件付き確率「データサイエンス入門」 ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データサイエンス入門」 ・相関係数、相関関係と因果関係「データサイエンス入門」 ・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度「データサイエンス入門」 ・確率分布、正規分布、独立同一分布「データサイエンス入門」
	1-7 <ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)「プログラミング入門」 ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「プログラミング入門」 ・ソートアルゴリズム(バブルソート、選択ソート、挿入ソートなど)「プログラミング入門」 ・探索アルゴリズム(線形探索、二分探索、リスト探索、木探索など)「プログラミング入門」
	2-2 <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「基礎情報処理」 ・構造化データ、非構造化データ「基礎情報処理」 ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「基礎情報処理」
	2-7 <ul style="list-style-type: none"> ・文字型、整数型、浮動小数点型「プログラミング入門」 ・変数、代入、四則演算、論理演算「プログラミング入門」 ・配列、関数、引数、戻り値「プログラミング入門」 ・順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「プログラミング入門」
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・データ駆動型社会、Society 5.0「基礎情報処理」
	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスティングなど)「データサイエンス入門」 ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「基礎情報処理」、「データサイエンス入門」、「AI入門」 ・データの収集、加工、分割/統合「基礎情報処理」
	2-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「基礎情報処理」、「データサイエンス入門」 ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス「基礎情報処理」、「データサイエンス入門」 ・ビッグデータ活用事例「基礎情報処理」、「データサイエンス入門」
	3-1 <ul style="list-style-type: none"> ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「AI入門」 ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「基礎情報処理」 ・人間の知的活動とAI技術(学習、認識、予測・判断、知識・言語、身体・運動)「基礎情報処理」、「AI入門」 ・AI技術の活用領域の広がり(流通、製造、金融、インフラ、公共、ヘルスケアなど)「AI入門」
	3-2 <ul style="list-style-type: none"> ・AI倫理、AIの社会的受容性「AI入門」 ・プライバシー保護、個人情報取り扱い「基礎情報処理」 ・AIに関する原則/ガイドライン「AI入門」 ・AIの公平性、AIの信頼性、AIの説明可能性「AI入門」
	3-3 <ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)「AI入門」 ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「基礎情報処理」、「AI入門」 ・学習データと検証データ「AI入門」 ・ホールドアウト法、交差検証法「AI入門」 ・過学習、バイアス「AI入門」
	3-4 <ul style="list-style-type: none"> ・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など)「AI入門」 ・ディープニューラルネットワーク(DNN)「AI入門」
	3-5 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎モデル、大規模言語モデル、拡散モデル「AI入門」 ・生成AIの負の側面(ハルシネーションによる誤情報の生成、偽情報や有害コンテンツの生産・氾濫など)「AI入門」 ・マルチモーダル(言語、画像、音声など)「AI入門」 ・フロンティアエンジニアリング「AI入門」 ・フィインチューニング「AI入門」
	3-10 <ul style="list-style-type: none"> ・AIの開発環境と実行環境「AI入門」 ・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「AI入門」 ・複数のAI技術を活用したシステム(スマートスピーカー、AIアシスタントなど)「AI入門」
	I <ul style="list-style-type: none"> ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「データサイエンス入門」 ・相関係数、相関関係と因果関係「データサイエンス入門」 ・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度「データサイエンス入門」 ・確率分布、正規分布、独立同一分布「データサイエンス入門」
II <ul style="list-style-type: none"> ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスティングなど)「データサイエンス入門」、「AI入門」 ・様々なデータ可視化手法(比較、構成、分布、変化など)「データサイエンス入門」、「AI入門」 ・人間の知的活動とAI技術(学習、認識、予測・判断、知識・言語、身体・運動)「AI入門」 ・AI技術の活用領域の広がり(流通、製造、金融、インフラ、公共、ヘルスケアなど)「AI入門」 ・実世界で進む機械学習の応用と発展(需要予測、異常検知、商品推薦など)「AI入門」 ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AI入門」 ・学習データと検証データ「AI入門(基礎科目)」 ・ホールドアウト法、交差検証法「AI入門」 ・過学習、バイアス「AI入門」 ・実世界で進む深層学習の応用と革新(画像認識、自然言語処理、音声生成など) ・ディープニューラルネットワーク(DNN)「AI入門」 	

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎レベルで学んだ知識やスキルをさらに発展させ、実践的なデータ分析やAI活用を可能にする応用能力を修得できる。 ・数理・データサイエンス・AIに関するより高度な知識を体系的に学ぶことで、課題解決のプロセスを深く理解し、さまざまな分野での応用が可能なスキルを修得できる。
--

応用基礎レベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

学部・学科名称	学生数		入学定員	収容定員	令和7年度		令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		履修者数合計	履修率
	うち女性				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
文学部	1,584	1,584	353	1,476	393												393	27%
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
																	0	#DIV/0!
合計	1,584	1,584	353	1,476	393	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	393	27%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	256	人
(非常勤)	765	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

18	人
----	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	小川賀代
(役職名)	情報処理委員会委員長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	情報処理委員会
------	---------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	情報処理委員会内規
------	-----------

⑥ 体制の目的

大学執行部会議下の基盤教育センター内に情報処理委員会が設置され、全学的な情報処理科目のカリキュラム編成等、本学の情報処理教育の長期的な基本方針の策定を行う。また、数理・AI・データサイエンスに関する教育プログラムの全学的な普及・点検・改善を行う。

⑦ 具体的な構成員

理学部
 小川賀代 理学部数物情報科学科 教授(情報処理委員会委員長)
 長谷川治久 理学部数物情報科学科 教授(メディアセンター所長)
 人間社会学部
 上田彩子 心理学科 准教授
 家政学部
 杉山哲司 児童学科 教授
 文学部
 林悠子 日本文学科 准教授
 通信教育課程
 浅見美穂 生活芸術学科 特任教授

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	27%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	75%
令和10年度予定	95%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

上記を実現するために、以下の取組を継続的に実施する。本プログラムの修了に必要な4科目は、すべて全学共通の基盤的科目群(情報処理)として開講している。うち「基礎情報処理」は全学1年次必修で、数理・AI・データサイエンス認定制度のリテラシーレベルに認定済である。一方、「データサイエンス入門」「AI入門」「プログラミング入門」は2年次以降の選択科目であるため、履修者データに基づき、全学生が履修しやすい時間割配置を毎年度点検し、前後期の受講者数が過度に偏らないよう調整する。「データサイエンス入門」「AI入門」は2021年度から各1クラスで開講し、初年度21名・36名が2024年度には131名・79名へ増加した。2025年度からは両科目とも前後期各1クラスに増設し、新設の「プログラミング入門」も前後期各1クラスで整備することで、履修率の増加と修了率の着実な向上を図る。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

全学共通の情報処理科目を所管する情報処理委員会が、毎年度の履修状況を確認し、重複の少ない時間割配置への見直し・点検を行う。あわせて、履修者の増加に応じて「データサイエンス入門」「AI入門」「プログラミング入門」を前後期各1クラス体制(2025年度～)で運用し、必要に応じて追加開講や授業形態(対面・オンデマンド併用等)の調整を行うことで、学部・学科を問わず希望者全員の受講機会を確保する。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムの履修により、特に情報を専門としない学生であっても「数理・データサイエンス・AIに関する知識・技術を体系的に学び、それを運用できる能力を身に付けられる」ことを既にHPやLMSを通じて周知しているが、今後はパンフレット等を作成して新年度の履修ガイダンスで説明する。そこには就職活動等の進路やその選択にどのように役立ったかという修了生の「声」を取り上げることでさらに多くの学生のプログラム修了を促していく。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

必修科目である、基礎情報処理、データサイエンス入門、AI入門、プログラミング入門は全学科目であり、これらの科目は、基礎科目情報処理研究室が一元的に履修の支援を実施している。また、本学メディアセンターがICT環境の利活用に関する幅広いサポートを行い、学内での自習環境や自宅から遠隔で学内情報環境に接続して利用できる環境などを整備し、自分のパソコンやソフトウェアが学修上のネックとならないようにサポートしている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学では、オフィスアワー制度により、科目を担当する専任教員が質問対応や履修上の相談に対応できる体制が整備されている。学生は各教員のオフィスアワーに研究室を訪れて学習指導を受けることができる。さらに質問等はLMSシステムを介して常時受け付けられるため、迅速な対応が可能である。また、全学科目に関しては、基礎科目情報処理研究室が授業時間内外の学習指導、質問対応などの支援を行っている。授業時間内には担当教員以外に授業支援者(1~3名)が教室に参加し、個々の学生の躓きや疑問点に即応しつつ、全体の授業の進度に支障が出ないように授業運営を行なっている。また、当該研究室の開室時間内であれば随時情報処理科目全般に関する質問、相談を受け付けている。さらに、学内の情報環境の利用に関するハードウェアならびにソフトウェア全般のサポートや質問に関してはメディアセンターが行っている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 情報処理委員会自己点検・評価委員会

(責任者名) 小川賀代
 (役職名) 情報処理委員会自己点検・評価委員会委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	「基礎情報処理」は全学部必修科目であり、全学生が履修している。「AI入門」の2025年度履修者は全学で126名(2024年度132名)、「データサイエンス入門」は80名(2024年度79名)であり、2024年度はいずれも単位取得率が90%を超え、履修状況は良好である。また、新設の「プログラミング入門」は2025年度に全学で63名が履修し、前期の単位取得率も95%以上と順調に推移している。 本プログラムは2025年度より開始し、現在およそ23%の学生が履修を開始している。履修者増加に対応するため、「AI入門」「データサイエンス入門」は1クラスから2クラスに、「プログラミング入門」も2クラスで開講し、学生が円滑に履修できる環境を整備している。
学修成果	全学の情報科目では、毎期末に実施する「学生と授業改善について考えるアンケート」により、学生の理解度・達成度を把握している。2024年度の「AI入門」と「データサイエンス入門」の回収率は100%であり、「AI・データサイエンスを自分で役立てたいと思いますか?」との質問には、「とてもそう思う」が52%、「どちらかといえばそう思う」が39%で、計91%(2023年度93%)の学生が学修成果を今後に活かしたいと回答した。また、「AI・データサイエンスへの興味は変わりましたか?」の問いには、73%(2023年度74%)が「前より面白くなった」と回答している。これらの結果から、2025年度においても同様の学修効果が期待できる。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	2024年度の学生アンケートでは、「AI入門」「データサイエンス入門」において、「AI・データサイエンスの概念について理解できましたか」という問いに対し、「とてもそう思う」が30%、「どちらかといえばそう思う」が65%で、計95%の学生が概ね理解できたと回答した。また、「授業の難易度はいかがでしたか」という質問では、2023年度の結果を踏まえた改善を行ったことで、2024年度は「難しかった」が6%(2023年度12%)、「どちらかといえば難しかった」が21%(同42%)となり、難易度が高いと感じる学生の割合を妥当な水準まで低減することができた。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	全学科目である「AI入門」と「データサイエンス入門」では、実際に学んだ先輩たちが、高い満足度と学習意欲の向上をアンケートで示している。自由記述には、将来のキャリアを見据えた受講動機や、授業を通じて新たな分野への興味が広がったことなど、後輩にとって参考となる具体的な感想が多く寄せられている。 【AI入門】では、「生成AIの仕組みや正しい使い方を理解できた」「AIの可能性と限界を学び、活用には技術と経験が必要と感じた」といった声が多く、基礎的内容でありながら実践的な学びが得られたことが伺える。 【データサイエンス入門】では、「R言語による可視化が楽しかった」「易しい内容から専門的な内容まで幅広く学べた」といった感想が多く、授業をきっかけに自ら学習を継続したいと述べる学生も見られる。 これらの先輩の声は、学科HPやパンフレットで紹介し、後輩の受講を後押ししていく予定である。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	「基礎情報処理」は2021年度から全学必修科目として位置づけられ、全学的な履修率の向上をすでに実現している。その他の科目は全学共通科目として学科の自由選択科目に設定されており、2025年度に開始した本プログラムには現在およそ23%の学生が履修を開始している。 履修者数の増加に対応するため、今年度より「AI入門」「データサイエンス入門」を1クラスから2クラスに増設し、「プログラミング入門」についても2クラス体制で開講するなど、学生が円滑に履修できる環境整備を進めている。 今後も、新学期履修ガイダンスやホームページでの情報提供を強化し、継続的な周知を図ることで、全学的な履修率の一層の向上を目指す。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		業種別就職状況については、理系・文系を問わず、全学部から情報通信業界への就職が多く見られる。特に理学部では、2023年度は46%、2024年度は39%であり、業種別では最も多い。全学的に見ても、2024年度は16%で、サービス業界に次いで2番目に多い業界となっている。 職種別就職状況についても同様に、理系・文系を問わず情報通信関連職種への就職が多く、特に理学部では2023年度は61%、2024年度は44%で職種別では最多となっている。 これらの就職実績から、情報通信業界を中心に高い採用率を示しており、企業からは分析力・AI活用能力・データ活用能力を有する即戦力として高く評価されていることが窺える。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		日本女子大学外部評価委員会規程に基づき設置されている外部評価委員会(産業界、自治体等の有識者で構成)から、データサイエンスの推進について提言をいただいた(2019年度)。この提言を踏まえ、社会で実践的なICT活用ができる人材育成を目指して、2021年度より全学共通の「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム」を開設し、文部科学省より「リテラシーレベル」の認定をいただいた。それをさらに促進し、より深く実践的にAI、データサイエンス、ICTの活用する力を身に着けるため、2021年度より理学部において、「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム(アドバンス)」を開始し、「応用基礎レベル」の認定をいただいた。2025年度より全学を対象とした「AI・データサイエンス・ICT教育認定プログラム(スタンダード)」を開始した。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		Society5.0の社会像を具体的に理解できるよう、政府・研究機関・経済団体が提供するドラマ仕立ての動画を教材として活用し、自分たちの生活がどのように変化するかを実感できるよう工夫している。授業では、動画で意義を感じたサービスとその実現技術をレポートさせ、さらにAIやデータサイエンスを活用して実現したい技術・サービスを提案させることで、「学ぶ楽しさ」と「学ぶ意義」を自分事として捉えられるようにしている。また、自身の専門分野との関連も意識させ、社会課題の解決に数理・データサイエンス・AIがどう貢献するかを主体的に考える姿勢を育成している。学生アンケートでは、「AI・データサイエンス・ICTが社会に重要であると理解できた」と回答した学生が96%に達し、教育効果が確認できている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		「学生と授業改善について考えるアンケート」を各期末に実施し、結果を踏まえて分かりやすい授業のための改善を続けている。データサイエンスに関する演習テキストは、アンケートから学生が難しいと感じたところを毎年修正している。「AI入門」「データサイエンス入門」の授業の難易度は、いかがでしたか?」に対し、2023年度の調査結果では、「難しかった 12%」「どちらかと言えば難しかった42%」であったが、2024年度は、「難しかった 6%」「どちらかと言えば難しかった 21%」と改善がみられた。

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000501 基礎情報処理 (1数)		
担当者名/Instructor	塩津晃明		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室 1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	理学部(数物情報科学科)の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュータリテラシーを身につけることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けたプログラミングの初歩およびデータサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身につけていく。また、アクティブラーニング(反転授業)を用いることがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる。 2. 大学のコンピュータ環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる。 3. プログラミングの初歩的スキルを修得している。 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる。 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. 情報倫理 3. プログラミング入門1 プログラミング言語、標準出力、簡単な計算処理 4. プログラミング入門2 プログラムの書き方と実行、文字列の操作 5. プログラミング入門3 順次処理、タートルグラフィックスの利用 6. プログラミング入門4 変数を利用した計算、高度な関数の利用 7. プログラミング入門5 条件分岐 8. プログラミング入門6 反復処理 9. プログラミング入門7 描画処理、グラフ 10. データサイエンス入門1 表計算の基礎(セル、参照方式、基本的な関数) 11. データサイエンス入門2 大規模なデータの統計処理と可視化 12. 人工知能、ディープラーニング 13. ICTの発展と社会 14. まとめ(実技試験) 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
授業外学修(準備・事後学習等に必要時間・具体的な内容)/Prep&Review	情報倫理やインターネットの利用上の注意については、履修前の確認として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。表計算、プログラミング入門については、最低でも授業時間と同じ程度の時間、実際にコンピュータを使っている復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに提出できるように、しっかり計画を立てて取り組むこと。これらの学修に60時間以上を要する。		
授業外学修(※参照用)/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf		

使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2019（実教出版）。そのほかLMS（manaba）で資料を配布する。
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	必ず全員が前期に履修してください。後期の開講はありません。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	<p>2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。</p> <p>対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。）</p> <p>※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000514 基礎情報処理 (2英)		
担当者名/Instructor	小川賀代		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000522 基礎情報処理 (3国)		
担当者名/Instructor	星名由美		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000523 基礎情報処理 (4教)		
担当者名/Instructor	星名由美		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000509 基礎情報処理 (5英)		
担当者名/Instructor	渡邊洋平		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室 1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000526 基礎情報処理 (6心)		
担当者名/Instructor	上田彩子		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000527 基礎情報処理（7社）		
担当者名/Instructor	上田彩子		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year（※履修しうる最低年次を表示）	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット／コンピュータリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング（反転授業）を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法（アクティブ・ラーニングの種類）/Type of Active Learning	B. 反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2：表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3：総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類（詳細）※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000504 基礎情報処理 (8化)		
担当者名/Instructor	小川賀代		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室 1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000505 基礎情報処理 (9 経)		
担当者名/Instructor	藤田智子		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室 1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000506 基礎情報処理 (10建)		
担当者名/Instructor	藤田智子		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000507 基礎情報処理 (11数)		
担当者名/Instructor	長谷川治久		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	理学部(数物情報科学科)の1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュータリテラシーを身につけることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けたプログラミングの初歩およびデータサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身につけていく。また、アクティブラーニング(反転授業)を用いることがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる。 2. 大学のコンピュータ環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる。 3. プログラミングの初歩的スキルを修得している。 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる。 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. 情報倫理 3. プログラミング入門1 プログラミング言語、標準出力、簡単な計算処理 4. プログラミング入門2 プログラムの書き方と実行、文字列の操作 5. プログラミング入門3 順次処理、タートルグラフィックスの利用 6. プログラミング入門4 変数を利用した計算、高度な関数の利用 7. プログラミング入門5 条件分岐 8. プログラミング入門6 反復処理 9. プログラミング入門7 描画処理、グラフ 10. データサイエンス入門1 表計算の基礎(セル、参照方式、基本的な関数) 11. データサイエンス入門2 大規模なデータの統計処理と可視化 12. 人工知能、ディープラーニング 13. ICTの発展と社会 14. まとめ(実技試験) 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験、受講状況などを総合的に勘案して決める。		
授業外学修(準備・事後学習等に必要時間・具体的な内容)/Prep&Review	情報倫理やインターネットの利用上の注意については、履修前の確認として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。表計算、プログラミング入門については、最低でも授業時間と同じ程度の時間、実際にコンピュータを使っている復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに提出できるように、しっかり計画を立てて取り組むこと。これらの学修に60時間以上を要する。		
授業外学修(※参照用)/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf		

使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2019（実教出版）。そのほかLMS（manaba）で資料を配布する。
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	必ず全員が前期に履修してください。後期の開講はありません。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	<p>2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。</p> <p>対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。</p> <p>対面授業</p> <p>遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。）</p> <p>同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。</p> <p>Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。）</p> <p>オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。</p> <p>manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。（教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） <p>※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。</p>
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000508 基礎情報処理 (12化)		
担当者名/Instructor	横田裕介		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000502 基礎情報処理 (13日)		
担当者名/Instructor	渡邊ゆり		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000510 基礎情報処理 (14史)		
担当者名/Instructor	奥村幸子		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000511 基礎情報処理 (16児)		
担当者名/Instructor	宮本義孝		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000532 基礎情報処理 (17現)		
担当者名/Instructor	小宮山春美		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000512 基礎情報処理 (18食・栄)		
担当者名/Instructor	杉岡幸次		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000513 基礎情報処理（19日・建）		
担当者名/Instructor	長谷川治久		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year（※履修しうる最低年次を表示）	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット／コンピュータリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング（反転授業）を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法（アクティブ・ラーニングの種別）/Type of Active Learning	B. 反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）／F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2：表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3：総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類（詳細）※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000503 基礎情報処理 (2 1 英)		
担当者名/Instructor	大野慶祐		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000524 基礎情報処理 (2 2 国)		
担当者名/Instructor	上田彩子		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室 1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット／コンピュータリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング（反転授業）を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法（アクティブ・ラーニングの種類）/Type of Active Learning	B. 反転授業（知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1：表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1：コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2：表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2：コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3：表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3：ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4：データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4：ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5：データの処理 7. [講義]情報科学概論5：マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6：データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6：マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7：データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7：コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1：Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8：コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2：表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3：総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類（詳細）※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験（筆記と実技）、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000525 基礎情報処理 (23教)		
担当者名/Instructor	上田彩子		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000515 基礎情報処理 (24史)		
担当者名/Instructor	中川真菜美		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000528 基礎情報処理 (2.5心)		
担当者名/Instructor	星名由美		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュータリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000529 基礎情報処理 (2 6 社)		
担当者名/Instructor	星名由美		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000530 基礎情報処理 (27国)		
担当者名/Instructor	星名由美		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000516 基礎情報処理 (28被・経)		
担当者名/Instructor	藤田智子		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000517 基礎情報処理 (29建・経)		
担当者名/Instructor	藤田智子		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000518 基礎情報処理 (30 兎)		
担当者名/Instructor	長谷川治久		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室 1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000519 基礎情報処理 (3 1 被)		
担当者名/Instructor	中島徹		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000533 基礎情報処理 (32現)		
担当者名/Instructor	小宮山春美		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回到授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000520 基礎情報処理 (3 3 米)		
担当者名/Instructor	杉岡幸次		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室2	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュタリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュタリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000521 基礎情報処理 (34日)		
担当者名/Instructor	奥村幸子		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	1年
教室/Classroom	コンピュータ演習室1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-1-01-2
授業の概要/Course Summary	1年次学生を対象とする必修科目として、インターネット/コンピュータリテラシーを身に着けることをねらいとする。インターネットリテラシーとして、情報倫理とサイバーセキュリティを理解する。コンピュータリテラシーとして、専門教育に向けた文書作成、データサイエンス、人工知能技術の概要について学修することを目的とする。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	講義形式を基本としつつ、コンピュータ演習室で操作しながら具体的にリテラシーを身に着けていく。また、一部の内容でアクティブラーニング(反転授業)を行うことがある。反転授業の場合、テキストや動画コンテンツに沿って予習し、授業内では各自が課題を進める。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	B. 反転授業(知識習得の要素を教室外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	学習に関するフィードバックとして、授業最終回に授業全体に対する講評を行う。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報倫理やインターネットを利用する上での注意すべき点について説明できる 2. 大学の情報環境を有効に活用し、専門教育に必要な資料を作成できる 3. 文書作成、表計算を中心とするアプリケーションソフトを活用できる 4. 人工知能を含むデータサイエンスの役割を理解し、説明できる 		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<p>担当教員によって若干内容や進度が異なるが、以下を基本として授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [講義]イントロダクション、大学の情報環境の習得 2. [講義]情報倫理、サイバーセキュリティ [実習]データサイエンス入門1:表計算の基礎 3. [講義]情報科学概論1:コンピュータのハードウェア1 [実習]データサイエンス入門2:表計算の参照方式 4. [講義]情報科学概論2:コンピュータのハードウェア2 [実習]データサイエンス入門3:表計算の条件分岐、論理関数 5. [講義]情報科学概論3:ソフトウェア1 [実習]データサイエンス入門4:データのグラフ化 6. [講義]情報科学概論4:ソフトウェア2 [実習]データサイエンス入門5:データの処理 7. [講義]情報科学概論5:マルチメディアの情報1 [実習]データサイエンス入門6:データの統計処理 8. [講義]情報科学概論6:マルチメディアの情報2 [実習]データサイエンス入門7:データ集計と可視化 9. [講義]情報科学概論7:コンピュータネットワークとインターネット1 [実習]文書の作成1:Word基本文書作成 10. [講義]情報科学概論8:コンピュータネットワークとインターネット2 [実習]文書の作成2:表や図表の扱い、Word長文作成 11. [講義]情報処理の発展、[実習]文書作成3:総合演習 12. [講義]機械学習とディープラーニング、[実習]プログラミング実習 13. [実習]プログラミング実習 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	コンピュータ演習室での対面授業として実施する。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	原則として課題レポートや試験(筆記と実技)、受講状況などを総合的に勘案して決める。		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	情報科学の基本的な知識については、予習として高等学校の情報科の教科書の該当項目を読んでおく。授業内で扱うアプリケーションソフトウェアは、実際にコンピュータを使つての復習あるいは練習をしておく。課題は期日までに自力でしっかり仕上げるよう努力すること。これらの学修には60時間以上要する。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	30時間アカデミックOffice2021（実教出版）
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	授業教材をmanabaで配布予定
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	授業時間だけでなく、コンピュータ演習室や自宅ですできるだけコンピュータに触れ、習熟しておくこと。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000901 データサイエンス入門Ⅰ		
担当者名/Instructor	望月義彦		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	2年
教室/Classroom	物理情報演習室	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-2-01-2
授業の概要/Course Summary	<p>本授業の主題はデータサイエンスの手法を学ぶことに加え、文化現象を対象にデータサイエンスの手法を用いた事例を概観し、文理融合型の研究におけるデータ分析の有効性と重要性を学ぶことです。それ故、本授業ではデータサイエンスの手法を理解することだけではなく、文化に関するデータに対してデータサイエンスの分析手法をどのように応用するのか理解することが重要になります。また、本授業では、生活に必要なデータサイエンスの基礎を、シミュレーションを用いて身につけることを目標とします。直感的に理解できる内容をめざしながら、卒業研究の際に必要な統計の基礎も身につけてもらうことを目標とします。</p>		
授業の方法/Course Approaches or Methods	授業は講義とコンピューターを用いた実習を適宜組み合わせで行う。コンピューターは大学の演習室を利用する。		
授業の方法（アクティブ・ラーニングの種別）/Type of Active Learning			
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	<p>毎回、講義内容に対応した演習を行い、Google Classroomを通じて提出する。 毎授業後に学生に課したリアクションペーパーに対する教員からのフィードバックをManabaにより行う。</p>		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<p>(1) 統計処理のためのR言語の使い方を習得する (2) データサイエンスの基本的手法を習得する (3) データ分析の有効性と重要性を理解する (4) 統計の数理を理解する</p>		
授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要, R言語の演習 2. 記述統計学(1) 3. 記述統計学(2) 4. データの可視化 5. 確率と統計的仮説検定(t検定) 6. カイ二乗検定 7. 回帰分析 8. 線形判別分析 9. Excelを使った分析 10. 中間試験 11. 樹木モデル 12. クラスター分析 13. 主成分分析 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類（詳細）※必ずmanabaも確認すること。	対面授業（14回）		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	授業内課題提出で60%、中間試験で40%		
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	各回の予習復習に約60時間要する。		

授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	特に指定しない。講義中に適宜、資料を配布する。
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	書名：ゼロからはじめるデータサイエンス入門 R・Python一挙両得著者：辻真吾、矢吹太郎 出版社：講談社サイエンティフィク 出版年：2021 書名：教養としてのデータサイエンス 改訂第2版 著者：内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之／丸山宏 出版社：講談社サイエンティフィク 出版年：2024
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	お茶の水女子大学との「データサイエンス教育」に関する連携覚書に基づき、本科目ではお茶の水女子大学の教材を一部活用する。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162000902 データサイエンス入門 II		
担当者名/Instructor	藤田智子		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	2年
教室/Classroom	コンピュータ演習室3	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-2-01-2
授業の概要/Course Summary	<p>本授業の主題はデータサイエンスの手法を学ぶことに加え、文化現象を対象にデータサイエンスの手法を用いた事例を概観し、文理融合型の研究におけるデータ分析の有効性と重要性を学ぶことです。それ故、本授業ではデータサイエンスの手法を理解することだけではなく、文化に関するデータに対してデータサイエンスの分析手法をどのように応用するのか理解することが重要になります。また、本授業では、生活に必要なデータサイエンスの基礎を、シミュレーションを用いて身につけることを目標とします。直感的に理解できる内容をめざしながら、卒業研究の際に必要な統計の基礎も身につけてもらうことを目標とします。</p>		
授業の方法/Course Approaches or Methods	授業は講義とコンピューターを用いた実習を適宜組み合わせで行う。コンピューターは大学の演習室を利用する。		
授業の方法（アクティブ・ラーニングの種別）/Type of Active Learning			
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	<p>毎回、講義内容に対応した演習を行い、Google Classroomを通じて提出する。 毎授業後に学生に課したリアクションペーパーに対する教員からのフィードバックをManabaにより行う。</p>		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP		
授業の到達目標/Course Goals	<p>(1) 統計処理のための R 言語の使い方を習得する (2) データサイエンスの基本的手法を習得する (3) データ分析の有効性と重要性を理解する (4) 統計の数理を理解する</p>		
授業計画（半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む）/Course Plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要, R 言語の演習 2. 記述統計学 (1) 3. 記述統計学 (2) 4. データの可視化 5. 確率と統計的仮説検定 (t 検定) 6. カイ二乗検定 7. 回帰分析 8. 線形判別分析 9. Excel を使った分析 10. 中間試験 11. 樹木モデル 12. クラスター分析 13. 主成分分析 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類（詳細）※必ずmanabaも確認すること。	対面授業 (14回)		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	授業内課題提出で60%, 中間試験で40%		
授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	各回の予習復習に約60時間要する。		

授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	特に指定しない。講義中に適宜、資料を配布する。
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	書名：ゼロからはじめるデータサイエンス入門 R・Python一挙両得著者：辻真吾、矢吹太郎 出版社：講談社サイエンティフィク 出版年：2021 書名：教養としてのデータサイエンス 改訂第2版 著者：内田誠一／川崎能典／孝忠大輔／佐久間淳／椎名洋／中川裕志／樋口知之／丸山宏 出版社：講談社サイエンティフィク 出版年：2024
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	お茶の水女子大学との「データサイエンス教育」に関する連携覚書に基づき、本科目ではお茶の水女子大学の教材を一部活用する。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162001002 A 入門 I		
担当者名/Instructor	倉光君郎		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	2年
教室/Classroom	コンピュータ演習室 1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-2-02-2
授業の概要/Course Summary	本講義では、現代社会で注目を集めるAIの原理と可能性について体験的に学びます。まずAIリテラシーから学び、AIアルゴリズム、機械学習、大規模言語モデルなどの原理を学びます。最後に、最新のAI技術がもたらす社会的に影響について、著作権、倫理、バイアスの観点から考えて議論していきます。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	AIの原理をよく理解するため、PCを用いた体験演習が含まれます。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種別)/Type of Active Learning	C. ディスカッション、ディベート/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	毎回、授業のはじめに、前回の提出課題や感想の総括してレスポンスします。個別の質問は、Slackなどの双方向コミュニケーションツールを用いて対応します。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP1, 情報処理DP2		
授業の到達目標/Course Goals	AIの歴史やAIアルゴリズムについて説明できる 機械学習や深層学習を用いたモデル開発ができる AI時代におけるデータの重要性について説明できる AIの持つ倫理的な課題について体験的に説明できる		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(最先端のAIについて) 2. 生成AI とAIリテラシー(ハルシネーションを探す) 3. 生成AI の仕組み(目黒さんに続く言葉は?) 4. ルールと探索(知能について考える) 5. 特徴量と類似度(私と近いのは誰?) 6. 教師あり学習、ホールドアウト法 7. 画像認識(画像クラス分類に挑戦!) 8. 深層学習の原理を学ぶ 9. 大規模言語モデルとファインチューニング 10. コーパスとデータキュレーション(コーパスを作る) 11. AIと社会実装(ゲストスピーカーを予定) 12. 生成AIと著作権(キャラクターデザインを通して) 13. AIと社会、倫理、リテラシー 14. まとめ <p>ゲストスピーカー(予定)は決まり次第 manabaで告知します。 ゲストスピーカーの都合で講義順序は前後することがあります。</p>		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	原則、対面授業で実施します。 プログラミングやAIの体験が含まれるため、ノートPCを持って来れることが望ましいです。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題のレポート提出状況で評価します。 意欲的な授業態度(質問やコメント)を積極的に加点評価します。		
授業外学修(準備・事後学習等に必要時間・具体的な内	データサイエンスと機械学習を体得的するために、積極的にプログラミング課題に取り組むことが求められます。これらの課題に取り組むためには、60時間以上の授業外学習となります。		

容) /Prep&Review	
授業外学修(※参照用)/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	教科書や演習課題はWebサイトからオンライン配信します。 サイトは授業中に指定します。
使用言語/Language	日本語・その他
参考書(参考資料等)/Reference Books	参考書は特にありません。 オンラインで入手可能な情報、動画、サービスを活用して理解を深めることを推奨します。 生成AI(ChatGPT等)の積極活用を推奨します。
その他(受講生への要望)/Notes, Message to Students	全学部向けの数理・データサイエンス・AIの入門講座です。(理学部数物科学科の学生さんも大歓迎です。) Python 体験が含まれるため、「プログラミング入門」(もしくは「データ構造とアルゴリズム」「計算機数学I」)とあわせて履修すると理解が深まります。
学位授与方針(※参照用)/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について(※入力にあたっての注意事項)	2025年度は原則として対面で授業を行います(一部遠隔授業科目を除く)。 対面授業と遠隔授業(同時双方向型及びオンデマンド専用型)の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目(対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。) 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目(対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。) オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目(月・火・水・金6時限) ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 (教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。) ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表(※参照用)	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162001001 A I 入門 II		
担当者名/Instructor	倉光君郎		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	2年
教室/Classroom	コンピュータ演習室 1	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-2-02-2
授業の概要/Course Summary	本講義では、現代社会で注目を集めるAIの原理と可能性について体験的に学びます。まずAIリテラシーから学び、AIアルゴリズム、機械学習、大規模言語モデルなどの原理を学びます。最後に、最新のAI技術がもたらす社会的に影響について、著作権、倫理、バイアスの観点から考えて議論していきます。		
授業の方法/Course Approaches or Methods	AIの原理をよく理解するため、PCを用いた体験型の演習が含まれます。		
授業の方法(アクティブ・ラーニングの種類)/Type of Active Learning	C. ディスカッション、ディベート/F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	毎回、授業のはじめに、前回の提出課題や感想の総括してレスポンスします。個別の質問は、Slackなどの双方向コミュニケーションツールを用いて対応します。		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP1, 情報処理DP2		
授業の到達目標/Course Goals	AIの歴史やAIアルゴリズムについて説明できる 機械学習や深層学習を用いたモデル開発ができる AI時代におけるデータの重要性について説明できる AIの持つ倫理的な課題について体験的に説明できる		
授業計画(半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む)/Course Plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス(最先端のAIについて) 2. 生成AIとAIリテラシー(ハルシネーションを探す) 3. 生成AIの仕組み(目黒さんに続く言葉は?) 4. ルールと探索(知能について考える) 5. 特徴量と類似度(私と近いのは誰?) 6. 教師あり学習、ホールドアウト法 7. 画像認識(画像クラス分類に挑戦!) 8. 深層学習の原理を学ぶ 9. 大規模言語モデルとファインチューニング 10. コーパスとデータキュレーション(コーパスを作る) 11. AIと社会実装(ゲストスピーカーを予定) 12. 生成AIと著作権(キャラクターデザインを通して) 13. AIと社会、倫理、リテラシー 14. まとめ <p>ゲストスピーカー(予定)は決まり次第 manabaで告知します。 ゲストスピーカーの都合で講義順序は前後することがあります。</p>		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類(詳細)※必ずmanabaも確認すること。	原則、対面授業で実施します。 プログラミングやAIの体験が含まれるため、ノートPCを持って来れることが望ましいです。		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	演習課題のレポート提出状況で評価します。 意欲的な授業態度(質問やコメント)を積極的に加点評価します。		
授業外学修(準備・事後学習等に必要時間・具体的な内	データサイエンスと機械学習を体得的するために、積極的にプログラミング課題に取り組むことが求められます。これらの課題に取り組むためには、60時間以上の授業外学習となります。		

容) /Prep&Review	
授業外学修(※参照用)/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	教科書や演習課題はWebサイトからオンライン配信します。 サイトは授業中に指定します。
使用言語/Language	日本語・その他
参考書(参考資料等)/Reference Books	参考書は特にありません。 オンラインで入手可能な情報、動画、サービスを活用して理解を深めることを推奨します。 生成AI(ChatGPT等)の積極活用を推奨します。
その他(受講生への要望)/Notes, Message to Students	全学部向けの数理・データサイエンス・AIの入門講座です。(理学部数物科学科の学生さんも大歓迎です。) Python 体験が含まれるため、「プログラミング入門」(もしくは「データ構造とアルゴリズム」「計算機数学I」)とあわせて履修すると理解が深まります。
学位授与方針(※参照用)/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について(※入力にあたっての注意事項)	2025年度は原則として対面で授業を行います(一部遠隔授業科目を除く)。 対面授業と遠隔授業(同時双方向型及びオンデマンド専用型)の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目(対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。) 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目(対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。) オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目(月・火・水・金6時限) ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 (教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。) ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表(※参照用)	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162001701 プログラミング入門Ⅰ		
担当者名/Instructor	倉光君郎		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度前期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	2年
教室/Classroom	コンピュータ演習室3	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-2-03-2
授業の概要/Course Summary	<p>本講義は、数理データサイエンス・AI時代を生きるプログラミングの基礎を学びます。生成AIを活用したプログラミングの学習法を伝授し、アルゴリズム基礎からデータエンジニアリング基礎まで学びます。</p> <p>生成AIを活用した学びに対応 MDASH (応用基礎レベル) 対応</p>		
授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>本講義は、対面によるコンピュータによる演習を中心とした講義になっています。基本的に、プログラミング演習に取り組み、最後にmanabaで演習課題を提出してもらいます。</p>		
授業の方法 (アクティブ・ラーニングの種別) /Type of Active Learning	F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	<p>毎回、授業のはじめに、前回の提出課題や感想の総括してレビュー報告していきます。個別の回答は、Slackなどの双方向コミュニケーションツールを用いて対応します。</p>		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP1,情報処理DP2		
授業の到達目標/Course Goals	<p>(1) Pythonを用いた基礎的なプログラミングができる (2) プログラミング学習において生成AIを活用できる (3) AI時代の基礎となるアルゴリズムの原理について説明できる (4) データや数理モデルに基づくプログラムを作成できる</p>		
授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生成AI とプログラミング活用法 2. プログラミング導入 3. プログラムと関数 4. 繰り返しと数理モデル 5. グラフと可視化 6. 文字列処理 7. 辞書, JSONデータ 8. 身の回りのアルゴリズム 9. ソートと計算量 10. 探索アルゴリズムからAIへ 11. データ処理 12. ルールから学習へ 13. プログラミング技能とキャリア形成 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類 (詳細) ※必ずmanabaも確認すること。	<p>対面方式で実施します。 コンピュータを用いた演習形式が含まれるため、ICTシステムを積極的に活用し、学びやすい授業形態を実現します。</p>		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	<p>定期試験は行わない。以下の平常点とレポートで成績を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 毎週の小課題 - レポート課題 (身の回りのアルゴリズム調査) - 学習意欲 		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	プログラミング力を高めるため、授業外でも積極的に課題に取り組むことが求められます。演習課題に取り組み、所定の単位を習得するためには、60時間の授業外学習となります。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	テキストは、講義中に指定したWebサイトから提供します。
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	Youtube 動画、生成AIなどを積極的に活用し、理解を深めることを推奨します。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	プログラミングが得意な学生も苦手な学生も楽しくプログラミングやアルゴリズムを学べるように講義を進めます。一緒に頑張りましょう。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

授業コード・科目名/Registration Code・Course Title	162001702 プログラミング入門 II		
担当者名/Instructor	倉光君郎		
開講年度学期/Academic Year, Semester	2025年度後期	授業区分/Class Category	週間授業
単位数/Credits	2.0単位	年次/Year (※履修しうる最低年次を表示)	2年
教室/Classroom	コンピュータ演習室 3	ナンバリング/Course Numbering	POI-A1-2-2-03-2
授業の概要/Course Summary	<p>本講義は、数理データサイエンス・AI時代を生きるプログラミングの基礎を学びます。生成AIを活用したプログラミングの学習法を伝授し、アルゴリズム基礎からデータエンジニアリング基礎まで学びます。</p> <p>生成AIを活用した学びに対応 MDASH (応用基礎レベル) 対応</p>		
授業の方法/Course Approaches or Methods	<p>本講義は、対面によるコンピュータによる演習を中心とした講義になっています。基本的に、プログラミング演習に取り組み、最後にmanabaで演習課題を提出してもらいます。</p>		
授業の方法 (アクティブ・ラーニングの種別) /Type of Active Learning	F. 実習、フィールドワーク		
学生に対する教員からのフィードバック方法/Ways to Give Feedback to Students	<p>毎回、授業のはじめに、前回の提出課題や感想の総括してレビュー報告していきます。個別の回答は、Slackなどの双方向コミュニケーションツールを用いて対応します。</p>		
学位授与方針との関係/Relations with Diploma Policy	情報処理DP1,情報処理DP2		
授業の到達目標/Course Goals	<p>(1) Pythonを用いた基礎的なプログラミングができる (2) プログラミング学習において生成AIを活用できる (3) AI時代の基礎となるアルゴリズムの原理について説明できる (4) データや数理モデルに基づくプログラムを作成できる</p>		
授業計画 (半期14項目、通年28項目 回数毎の内容含む) /Course Plan	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生成AI とプログラミング活用法 2. プログラミング導入 3. プログラムと関数 4. 繰り返しと数理モデル 5. グラフと可視化 6. 文字列処理 7. 辞書, JSONデータ 8. 身の回りのアルゴリズム 9. ソートと計算量 10. 探索アルゴリズムからAIへ 11. データ処理 12. ルールから学習へ 13. プログラミング技能とキャリア形成 14. まとめ 		
授業形態の種類/Type of Teaching Methods	A. 対面授業		
授業形態の種類 (詳細) ※必ずmanabaも確認すること。	<p>対面方式で実施します。コンピュータを用いた演習形式が含まれるため、ICTシステムを積極的に活用し、学びやすい授業形態を実現します。</p>		
成績評価の方法/Methods of Evaluation	<p>定期試験は行わない。以下の平常点とレポートで成績を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 毎週の小課題 - レポート課題 (身の回りのアルゴリズム調査) - 学習意欲 		

授業外学修（準備・事後学習等に必要な時間・具体的な内容）/Prep&Review	プログラミング力を高めるため、授業外でも積極的に課題に取り組むことが求められます。演習課題に取り組み、所定の単位を習得するためには、60時間の授業外学習となります。
授業外学修（※参照用）/Prep&Review for reference	授業外学習については以下を確認してください。 https://www3.jwu.ac.jp/fc/public/unvfile/academics/curriculum/tani_gakushu.pdf
使用テキスト/Text to be used	テキストは、講義中に指定したWebサイトから提供します。
使用言語/Language	日本語・その他
参考書（参考資料等）/Reference Books	Youtube 動画、生成AIなどを積極的に活用し、理解を深めることを推奨します。
その他（受講生への要望）/Notes, Message to Students	プログラミングが得意な学生も苦手な学生も楽しくプログラミングやアルゴリズムを学べるように講義を進めます。一緒に頑張りましょう。
学位授与方針（※参照用）/Diploma Policy	学部 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000afr0-att/syllabus_DP_code_unv.pdf 大学院 https://www.jwu.ac.jp/unv/about/information/ct6r0e000000d6gg-att/syllabus_DP_code_grd.pdf
授業形態の種類について（※入力にあたっての注意事項）	2025年度は原則として対面で授業を行います（一部遠隔授業科目を除く）。 対面授業と遠隔授業（同時双方向型及びオンデマンド専用型）の区分は以下のとおりとする。 対面授業 遠隔授業対象区分以外の全ての授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではZoom・manaba等を用いた双方向型遠隔授業とすることができる。） 同時双方向型…対面授業と同様に曜日・時限を設定し教室配当を行う。 Zoom等を用いた同時双方向型遠隔授業科目（対面授業に相当する教育効果を有すると認められる場合は、予めシラバスに記載することにより授業回数の1/3まではmanaba等を用いたオンデマンド型専用遠隔授業とすることができる。） オンデマンド専用型…オンデマンド専用型曜日・時限を設定し教室配当を行わない。 manaba等を用いた動画・資料配信によって行う遠隔授業科目 ・対面で実施しない教養科目（月・火・水・金6時限） ・教養科目以外のオンデマンド科目用に、木4・5時限をオンデマンド専用時間帯として設定する。 （教養科目以外は、通常の曜日・時限にもオンデマンド科目を置くことができる。） ※ご担当科目の授業形態が不明の場合には、ご担当科目の科目区分責任者にお問い合わせください。
「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表（※参照用）	https://www.jwu.ac.jp/unv/academics/curriculum/ct6r0e0000009bmr-att/kyoin_kamoku.pdf

IV

履修案内

教育課程について

本学では、本学の共通の教育理念に基づき、学部・学科共通の基礎的な知識、幅広い教養を身につけるための授業科目群と、学科の教育理念に基づいた専門分野の知識を習得するための授業科目群によって、教育課程（=カリキュラム）が構成されています。

それらの上で、資格関係科目、JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目など、様々な授業科目を提供しています。

教育課程全体の体系性を分かりやすく明示する仕組みとして、科目ナンバリングを導入しています。各授業科目の科目ナンバリングコードはシラバスに掲載されています。科目ナンバリングの詳細については、JASMINE-Navi より閲覧できます。

1 授業科目区分について

教育課程の構成

教育課程の目的	群	授業科目区分の名称	授業科目区分（細区分）		
本学共通の基礎的な知識、幅広い教養を身につける	基盤的科目	教養特別講義			
		JWU キャリア科目			
		JWU 社会連携科目			
		基礎科目	外国語	英語	
				独語	
				仏語	
				中国語	
				韓国語	
			情報処理		
			身体運動		
教養科目	A系列	多様な社会と人間の尊厳			
	B系列	自然の摂理の探求			
	C系列	知性と文化の系譜			
学科の専門分野の知識を習得する	学部・学科 専門科目	学科科目			
		学部共通科目			

(付加価値を与える教育)

教育課程の目的	授業科目区分の名称	授業科目区分（細区分）
資格取得を目的とする	資格関係科目	教職に関する科目
		司書及び司書教諭に関する科目
		博物館に関する科目
		日本語教員養成講座に関する科目
将来のキャリアを形成する	JWU キャリア科目・JWU 社会連携科目	

(留学生を対象とする教育)

教育課程の目的	授業科目区分の名称	授業科目区分（細区分）
留学生を対象とする授業科目	外国人留学生科目	
	交換留学生科目	

基礎科目

理念・目的

基礎科目では、現代社会の一員として、心身ともに自立し、責任をもって生きていくための基礎的な力を、体系的なカリキュラムによって培います。これらの科目を学ぶことで、各学科の専門科目を学修する際の土台を形成し、さらには社会に出て活躍するための基礎力を身につけることを到達目標とします。

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

基礎科目は、心身の基礎的な教養を身につけるために、外国語（英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語）、情報処理、身体運動から構成されています。所属する学科の専門科目を学修するための学問的基礎となるだけでなく、現代社会の一員として生きていくための基礎力を身につけます。そのため、授業内容に応じて、可能な限り少人数のクラスで、しかも、密度の高いカリキュラム編成による授業を実施しています。

基礎科目 情報処理

1年次学生を対象とする必修科目として、情報科学および情報処理に関する基礎的な知識を講義と実習を組み合わせ習得します。Windows の環境でデータ処理、簡単なプログラミングを行える能力を養うとともに、コンピュータのハード・ソフト、ネットワーク、情報セキュリティ等の基礎的な概念と情報倫理も併せて学習し、情報化時代に必要な AI、IoT などの知識も身につけます。

- 基礎情報処理は全学部必修科目です。反復履修不可。1クラスしか履修できません。
前期・後期を問わず前期始業時にクラス指定を行います。ただし、4年次前期に必修単位分を修得できなかった場合に限り、後期に追加登録できます。
- 人数調整することがあるので、掲示等に注意してください。
- 理学部・数物情報科学科の学生は、所属学科のクラスを履修しなければなりません。
- 家政学部、文学部、人間社会学部、理学部・化学生命科学科、国際文化学部、建築デザイン学部、食科学部の学生は、理学部・数物情報科学科のクラスを履修できません。

情報処理 授業科目表

系列	授業科目名	単位数	期	開講年次	担当者	備考
必修科目	基礎情報処理	必2	前(後)	1～	小川賀代 中島徹 横田裕介 上田彩子 大野慶祐 藤田智子 渡邊ゆり (未定) 奥村幸子 長谷川治久 (未定) 小宮山春美 杉岡幸次 星名由美 渡邊洋平 中川真菜美	前期1クラスは2025年度休講
選択科目	データサイエンス入門	選2	前(後)	2～	望月義彦 藤田智子	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	AI入門	選2	前(後)	2～	倉光君郎	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	プログラミング入門	選2	前(後)	2～	倉光君郎	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT活用Ⅰ	選2	前期	2～	久保進次	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT活用Ⅱ	選2	前期	2～	小宮山春美	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT活用Ⅲ	選2	前期	2～	鳥海有紀	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT活用Ⅳ	選2	前期	2～	上田彩子	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
	ICT活用Ⅴ	選2	後期	2～	清水謙多郎	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可
ICT活用Ⅵ	選2	後期	2～	上田彩子	「基礎情報処理」履修後でなければ履修不可	

情報処理委員会内規

(職掌)

第1条 大学執行部会議の下に基盤教育センター（以下「センター」という。）を置き、センターの下に情報処理委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、執行部の方針を踏まえた次の運営を行う。

(1) 委員会は、情報処理科目の新設・改廃・授業科目表の編成について立案し、大学執行部会議に提案する。

(2) 委員会は、情報処理科目の教員人事について協議し、大学執行部会議に提案する。

(3) 情報処理科目予算の執行については、情報処理委員会において審議決定する。

(4) 必要に応じて、他の委員会と連絡を取り、授業科目の内容等についての検討・調整を行う。

3 委員会は、執行部の方針を踏まえ、全学的な視野に立って、本学の情報処理教育の長期的な基本方針の策定を行う。

(委員長)

第2条 委員長は、専任教員の中からセンター長が指名し、大学執行部会議で決定する。

2 委員長は、専門委員又は学部委員となる。

(構成)

第3条 委員会は、大学執行部会議で決定した委員構成、人数に基づき、専門委員及び学部委員又はそのいずれかで構成する。

2 専門委員は、センター長及び委員長によって選出される。

3 学部委員は、学部長によって選出される。

4 委員会には、センター長も出席することができる。

5 委員長は、必要に応じて委員以外の教職員に対して委員会への出席を要請することができる。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、原則として専門委員3年、学部委員は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員の任期の途中で交代が生じた場合は、センター長と委員長で相談の上、後任委員を選出する。後任委員の任期は、前任者の残任任期とする。また、再任は妨げない。

(委員会の招集と運営)

第5条 委員長は、委員会を招集し議長となる。

2 委員会は、過半数(委任状を含む。)の出席をもって成立する。

3 委員会の議事は、出席委員の過半数で決する。可否同数の場合は、議長の決するところによる。

(報告)

第6条 委員会の審議結果は、センター長へ報告する。

(事務)

第7条 委員会に関する事務は、学務部学修支援課が行う。

(改廃)

第8条 この内規の改廃は、大学執行部会議の議を経て、学長が決定する。

附則

この内規は、2021年4月1日から施行する。

改正	平成10年4月1日	平成15年3月12日
	平成17年4月1日	平成18年4月1日
	平成19年4月1日	平成22年4月1日
	平成24年4月1日	平成26年4月1日
	平成27年4月1日	平成29年4月1日
	平成30年4月1日	平成30年6月1日
	平成31年4月1日	2019年6月1日
	2020年4月1日	2021年4月1日
	2022年4月1日	2023年4月1日
	2025年4月1日	

(目的)

第1条 この規則は、日本女子大学学則第2条、日本女子大学大学院学則第2条及び日本女子大学通信教育部規程第2条の規定に基づき、大学及び大学院の目的並びに社会的使命を達成するために、教育研究水準の向上を図り、教育研究活動の状況及び管理運営等について、自己点検及び評価を行うために必要な事項を定めることを目的とする。

(自己点検・評価の組織)

第2条 前条の目的を達成するために、内部質保証推進組織として自己点検・評価委員会を置く。

2 自己点検・評価委員会は、統括するための自己点検・評価委員会幹事会（以下「幹事会」という。）と点検・評価を行うための部門からなる。

(点検・評価項目)

第3条 自己点検・評価は、別表1に定める項目を基準とし、その細目については、自己点検・評価委員会の示す基本方針及び実施基準等に基づく。

(各種方針)

第4条 自己点検・評価委員会は、前条に定める別表1の項目ごとに方針を定め、日本女子大学各種方針として公表する。

(目標策定及び実行指示)

第5条 大学執行部会議は、中・長期計画に基づいた事業計画に則り、自己点検・評価委員会の示す基本方針及び実施基準に基づき、該当する委員会及び部局等に年度ごとに目標の策定及び実行を指示する。

2 常任理事会は、中・長期計画に基づいた事業計画に則り、自己点検・評価委員会の示す基本方針及び実施基準に基づき、該当する部局等に年度ごとに目標の策定及び実行を指示する。

(自己点検・評価委員会幹事会)

第6条 幹事会は、次の事項を決定する。

- (1) 自己点検・評価の基本方針、実施基準及び評価指標の策定
- (2) 各部門から報告された点検・評価結果の検証
- (3) 自己点検・評価報告書の作成及び報告
- (4) 認証評価及び外部評価の実施に関する事項
- (5) その他幹事会が必要と認める事項

2 幹事会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 副学長
- (2) 事務局長
- (3) 教学企画部長
- (4) 総務部長
- (5) 各部門の部門長
- (6) その他幹事会が必要と認める者

- 3 委員長は副学長が当たり、副委員長は委員長によって指名された委員が当たる。
- 4 委員長は、幹事会を招集しその議長となり、副委員長はこれを補佐する。
- 5 幹事会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 6 幹事会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、出席委員の過半数をもって決する。

(部門)

第7条 各部門は、基本方針と実施基準に基づき、該当委員会及び部局の自己点検・評価結果を検証し、幹事会に報告する。

2 各部門及び構成員は、次のとおりとする。

- (1) 教学部門 教員3名、学務部長、学務部事務部長
- (2) 教育研究等環境部門 教員3名、管理部長、学務部長、学務部事務部長、図書館事務部長
- (3) 入試部門 教員3名、入学部長
- (4) 学生部門 教員3名、学生生活部長、学生生活部事務部長
- (5) 社会連携部門 教員3名、社会連携教育センター所長、通信教育・生涯学習事務部長
- (6) 大学運営・財政部門 教員3名、財務部長
- (7) 教職課程部門 教員3名、学務部長、学務部事務部長、通信教育・生涯学習事務部長

3 部門担当となる教員は、専門性が必要な部分は幹事会委員長が指名し、それ以外は各学部から選出する。

4 各部門の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

5 各部門の構成員のうち1名を部門長とする。

(自己点検・評価におけるIRの活用)

第8条 自己点検・評価は、客観的な根拠資料又はデータに基づき実施するよう努める。なお、データの取り扱いについては、別に定める。

(点検・評価結果の活用)

第9条 自己点検・評価委員会は、大学執行部会議に自己点検・評価報告書及び検証結果を提出しなければならない。

2 大学執行部会議は、自己点検・評価報告書の精査、決定を行い、日本女子大学における教育研究活動の状況及び管理運営等の改善・改革方策の策定を行う。

3 学長及び理事長は、自己点検・評価の結果、改善が必要と認められた事項について、有効かつ具体的な措置を講ずる。

4 本学の構成員は、自己点検・評価の結果、改善が必要と認められた事項について、改善に努めなければならない。

(点検・評価の公表)

第10条 自己点検・評価の結果は、学長及び理事長の責任において公表する。

(事務局)

第11条 自己点検・評価委員会の事務は、教学企画部教学企画課が行う。

(改廃)

第12条 この規則の改廃は、自己点検・評価委員会の議を経て、理事長が行う。

附 則

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年3月12日から施行する。

附 則 (事務組織改編に伴う改正)

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

- この規則は、平成22年4月1日から施行する。
 附 則（役職新設等による委員の追加に伴う改正）
- この規則は、平成24年4月1日から施行する。
 附 則（事務組織変更に伴う改正）
- この規則は、平成26年4月1日から施行する。
 附 則（事務組織変更等に伴う改正）
- この規則は、平成27年4月1日から施行する。
 附 則（各委員会の役割の明確化等に伴う改正）
- この規則は、平成29年4月1日から施行する。
 附 則（大学基準への対応及び内部質保証体制の見直しに伴う改正）
- この規則は、平成30年4月1日から施行する。
 附 則（事務組織改編等に伴う改正）
- この規則は、平成30年6月1日から施行する。
 附 則（各種方針及び到達目標策定事項の追加に伴う改正）
- この規則は、平成31年4月1日から施行する。
 附 則（JWU女子高等教育センター設置に伴う改正）
- この規則は、2019年6月1日から施行する。
 附 則（社会連携教育センター設置に伴う改正）
- この規則は、2020年4月1日から施行する。
 附 則（自己点検・評価体制変更及び事務組織変更に伴う改正）
- 1 この規則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 日本女子大学各機関等自己点検・評価委員会規程及び自己点検・評価プロジェクトチームに関する内規は廃止する。
 附 則（自己点検・評価体制変更に伴う改正）
- この規則は、2022年4月1日から施行する。
 附 則（事務組織改編に伴う改正）
- この規則は、2023年4月1日から施行する。
 附 則（自己点検・評価体制変更に伴う改正）
- この規則は、2025年4月1日から施行する。

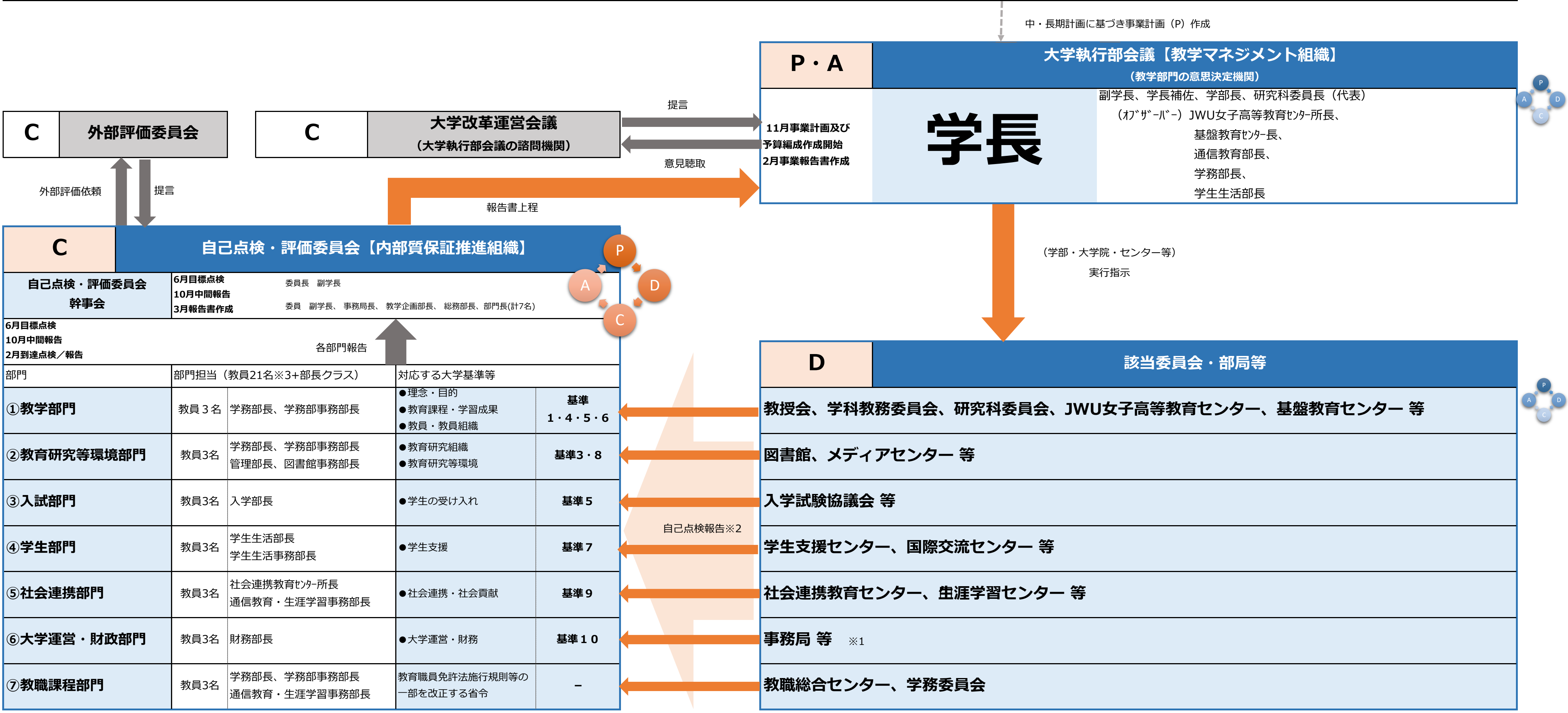
別表 1

1	大学・学部（通信教育課程を含む）・大学院等の理念・目的
2	内部質保証
3	教育研究組織
4	教育課程・学習成果
5	学生の受け入れ
6	教員・教員組織
7	学生支援
8	教育研究等環境
9	社会連携・社会貢献
10	大学運営・財務
11	その他

日本女子大学における内部質保証に関する体制図 2025年度～

理念・目的	建学の精神
	三綱領（信念徹底・自発創生・共同奉仕）
	3つのポリシー／人材養成・教育研究上の目的に関する規程

計画	中期計画（2024～2030年度）
----	-------------------



※3 教員21名 …専門性が必要な部分は委員長指名、それ以外は各学部より選出

※1 財政に関しては法人より実行指示がある

※2 年3回のモニタリングを含む

大学等名	日本女子大学（人間社会学部）
教育プログラム名	数理・AI・データサイエンスに関する教育プログラム（スタンダード）（文学部）

申請レベル	応用基礎レベル （学部・学科等単位）
申請年度	令和7年度

取組概要

I. 教育プログラムの目的

- ・ 数理的素養を身に付けた上で、数理・データサイエンス・AIを活用できる人材を育成する。
- ・ 数理・データサイエンス・AIに関する技術について体系的に学び、様々な分野で運用できる基礎能力を修得する。

II. 身につけることができる能力

- ・ 基礎レベルで学んだ知識やスキルをさらに発展させ、実践的なデータ分析やAI活用を可能にする応用能力を修得できる。
- ・ 数理・データサイエンス・AIに関するより高度な知識を体系的に学ぶことで、課題解決のプロセスを深く理解し、さまざまな分野での応用が可能なスキルを修得できる。

III. 教育プログラムの構成

科目の位置づけ	科目名	単位数
初年次科目	基礎情報処理 ※	2
発展的科目	データサイエンス入門	2
	AI入門	2
	プログラミング入門	2

※ 基礎情報処理は1年次の必修科目であり、2021年度より文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベルに認定されている科目である。

IV. 発展的科目の特徴

科目名	内容等
データサイエンス入門	データサイエンスの手法から、文理融合型の研究におけるデータ分析の有効性と重要性までを学ぶ
AI入門	AIの原理や最新事例、社会への影響を、プログラミング体験を通して学ぶ
プログラミング入門	数理データサイエンス・AI時代に必要なプログラミングの基礎を、Pythonと生成AIを用いた演習を通じて学ぶ

V. 修了要件

「III. 教育プログラムの構成」で示した4科目（計8単位）を修得すること。ただし、発展的科目は「基礎情報処理」の単位取得後に履修可能とする。